

茶のカンザワハダニ春期発生量の予測方法について

1 技術の概要

カンザワハダニの春期発生量については、晩秋期(10月後半～11月前半)及び1月の気温によって、予測が可能です(平成27年度普及に移す研究成果より抜粋)。

2 予測の根拠

①晩秋期の平均気温が17.5℃より高い場合

休眠しない雌の割合が高まり、産卵しやすくなります。

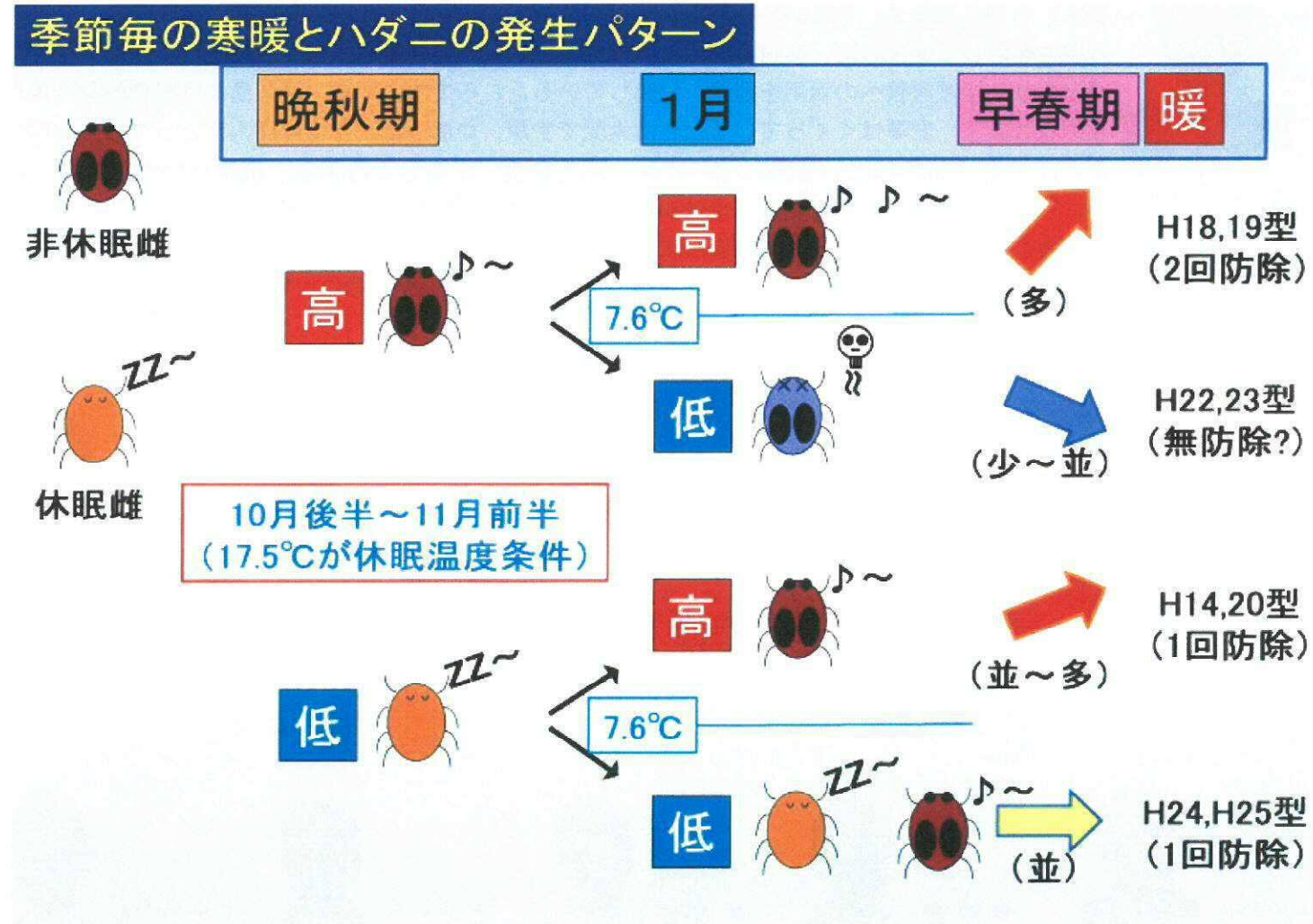
②1月の平均気温が7.6℃より低い場合

厳寒期に低温に遭遇した期間が長い程、その後、産卵数が減少します。



雌の成虫

3 カンザワハダニの発生パターン



4 留意点

前年の10月後半～11月前半の平均気温が高く、しかも翌年の1月の平均気温が高い年は、一番茶におけるカンザワハダニの発生量が多くなる可能性が高く注意が必要です。

(担当：内村)

6次産業化に取り組む農業者を支援します。

1 はじめに

屋久島町では、直売や農産加工等に取り組みたいという農業者等を対象に平成27年度、外部講師を招いてセミナー(表1)を開講します。開講は7月下旬の予定です。また、新たな商品開発のためのアイデア募集も行う予定です。

2 目的は？

- ・自然豊かな屋久島の恵み(農林水産物・加工品)を活用した新たな商品の企画・開発販売
- ・製造・販売を拡大するためのネットワークの構築

3 事業名

平成27年度 屋久島自然の恵み販売拡大事業
(屋久島自然の恵み商品化チャレンジ事業)



4 事業内容

- (1)商品化の基礎知識習得・調査の実施
- (2)課題抽出、マーケティング調査
- (3)ワークショップを通じたコンセプト、ターゲットの設定
- (4)チャレンジチームによる試作品づくり

興味・関心のある方は、屋久島町農林水産課または、屋久島事務所農林普及課までお問い合わせください。

【セミナー内容(案)】 (表1)

年月	内容等
7月上旬～	セミナー生の募集
7月下旬	開講式、商品化アイデア募集
8月下旬	ワークショップ(外部講師)
9月中旬	ワークショップ(外部講師)、アイデア整理
10月中旬	講義(ビジネスを構築するとは?)
11月中旬	講義(マーケティングと消費行動分析)
11月下旬	マーケティング調査
12月中旬	講義(ターゲットとコンセプト)
1月下旬	ワークショップ(ビジネスモデル作成)

(担当：上福元)

野菜栽培の基礎知識 ～肥料はどこまでやればいい?～

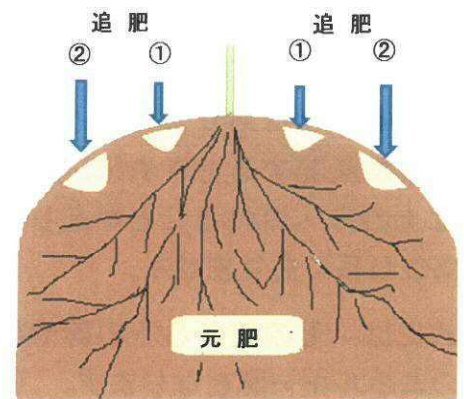
④ 元肥の施しかた

根がどのように生長していくかによって、施肥方法が異なります。

- ① 全面施肥…堆肥や肥料を畑全面にまいて耕し、土と肥料分をよく混ぜる方法
- ② 溝施肥…種や苗を植えるところに溝を掘り、溝深くに肥料分を施す方法

④ 根が深く入る野菜の施肥

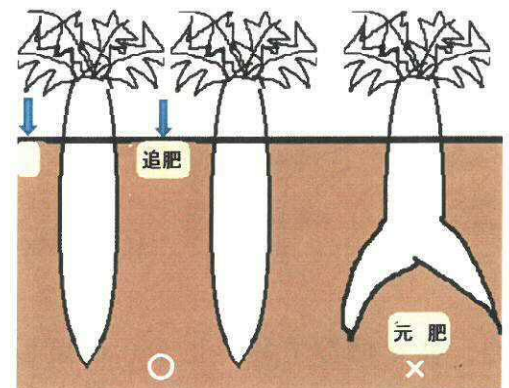
トマト、ナス、ハクサイなどのように深根性の野菜は20～30cmの深さに溝を掘って堆肥を入れ、リン酸肥料、窒素肥料を混ぜておきます。溝を土で埋め戻してその上に畦を作ります。苗が溝の真上にくるように植え付けると根が溝のところまで深く伸びていきます。



④ 根が太い野菜の施肥

ダイコン、ニンジン、ゴボウなどのように根自身が太く長くなる野菜は、種の真下に元肥があると奇形になりますので、株間に溝を掘って元肥を施すようにします。

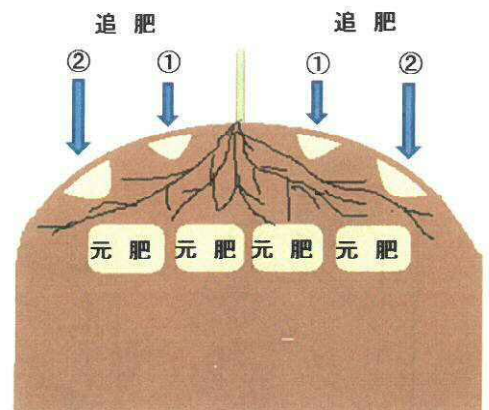
元肥の後、10数日ぐらい経ってから種をまいた方が、正常な根の育ち方をします。



④ 根が浅い野菜の施肥

キュウリ、イチゴ、ホウレンソウなどのように浅根性の野菜は元肥は広く浅く施す全面施肥が適しています。根が伸びていく方向に応じて肥料分が吸収できるからです。

株間を狭く植えつけるタマネギ、レタス、豆類や、生育期間の短い葉菜類なども全面施肥が適しています。



④ 追肥の施しかた

追肥は野菜の生育に応じて、最初は株元に、2回目以降は株からだんだん離れるように施し、軽く中耕します。

「糖の転流と養分蓄積」から果樹の剪定を考える

1 はじめに

ぽんかん、たんかんの剪定はそれぞれ1月、2月～3月に通常実施します。ところが、夏場剪定を行っているケースが見受けられます。そこで糖と養分蓄積の視点から少し考えてみました。

2 枝は独立採算制

葉で光合成によってつくられた糖は、枝から別の枝に流れることはありません。枝でつくられた糖は、針葉が展開するときや花、果実を充実させる時には上の方へ流れることがありますが、その距離はあまり長くありません。

基本的には、その枝から下の幹や根に運ばれ、幹や根のエネルギー源となります。(図1)

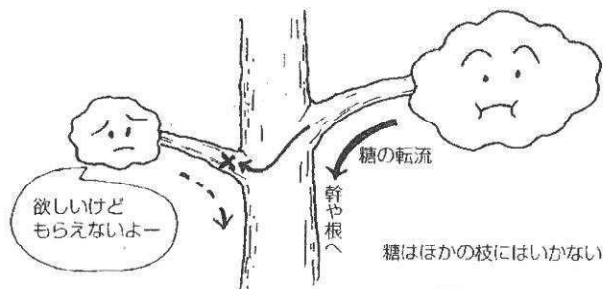


図1

また、長く伸びて枝先に少しの葉しかついていない枝を強く切り戻した場合、残された部分の休眠芽が芽吹かず枯れることがあります。(図2) これは残された枝の部分のエネルギーの貯蔵が少ないからです。枝は独立採算制で、枝に糖の貯えがないと休眠芽も伸びることができません。

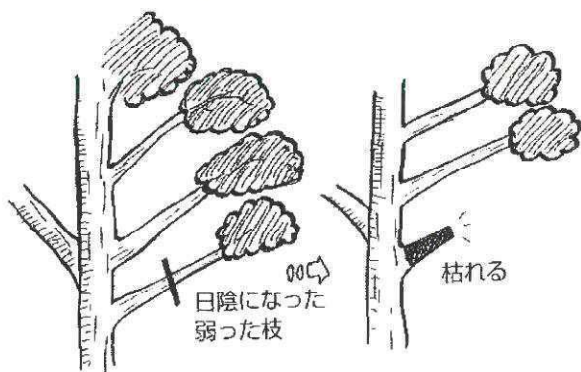


図2

3 糖の貯金を夏に使う

木は春、暖かくなると、発芽して葉を広げますが、そのエネルギーは秋から初冬にかけて貯め込んだ糖が使われます。そして梅雨時期までほとんど生長して葉をたくさん広げますが、そこで作られた糖もすぐに生長に使われてしまうため、6、7月頃には体の中の貯蔵エネルギーは最低になります。初夏から梅雨までの時期は葉が青々と茂り元気そうに見えますか、幹や根に貯えられたエネルギー量はかえって少ないのです。

この時期に枝や葉を強く切られる胴吹き枝を出したり、傷から病原菌が入るのを防ぐ防御層をつくるためエネルギーが足りず、樹木はひどく傷みます。

真夏の最も乾いた時期がくると、樹木は見かけの生長を遅くしますが、光合成を盛んに行い、そのエネルギーで根を生長させ、たくさんの水を吸収します。夏も終わり秋にかけて樹木は再び猛烈な勢いで体内に糖を貯め込み、厳しい冬に備えるのです。(図3)

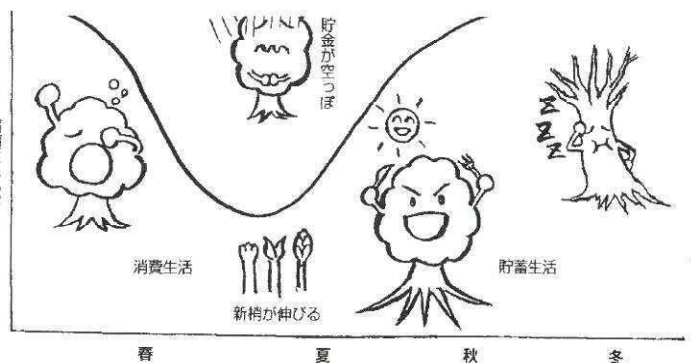


図3

以上のことから、ぽんかん、たんかんの剪定は、木にダメージが最も少なく木が休眠している1月～3月に実施します。

参照 「樹木の診断と手当て」

農文協発行

(担当：田淵)



交付金を活用した地域ぐるみの共同活動で
地域資源の保全活動に取り組みましょう!



平成27年度から多面的機能支払(水土里サークル活動)が
法律に基づく安定した制度になります!



「水土里サークル活動」は多面的機能支払交付金を活用した取組の本県における愛称です。

多面的機能支払の取組内容

農地維持支払・・・多面的機能を支える共同活動を支援

- 法面の草刈り, 水路の泥上げ, 農道の砂利補充など

資源向上支払・・・地域資源(農地, 水路, 農道等)の質的向上を図る共同活動を支援

- 水路, 農道, ため池の軽微な補修
- 景観植物の植栽やビオトープづくりなどの農村環境活動

屋久島町における取組事例



遊休農地発生防止のための草払い等



農道の草払い及び害獣防止のための枝打ち作業



水路に堆積したゴミや土砂の除去



獣害防止柵の補修



遊休地を活用した田植え



農道の補修



側溝の補修



景観形成のための植栽

屋久島町では9組織, 447haの農地で行われています。(26年度末)

【交付金単価】

地目	農地維持	資源向上
田	3,000円	2,400円
畑	2,000円	1,440円
草地	250円	240円

*単位は, 10アール当たりです。

*畑には樹園地を含みます。

*上記単価は新規地区に適用。

(継続地区は若干下がります。)

多面的機能支払については, 農家が日頃から実施している活動に対して交付金が支払われるので, 大変便利な制度となっております。また, 今年度から法律に基づく制度となるので, 腰を据えて取り組めます。

是非, 本制度の活用をご検討ください。

なお, 不明な点やご相談については, お気軽に農村整備係(46-2212)までお願いします。

屋久島農業普及だより

[編集発行]

屋久島事務所農林普及課農業普及係

屋久島町安房650 TEL:0997-46-2236 FAX:0997-46-3384

屋久島のいまを改善し, 未来につなげましょう!

~待ちだけでは何も起こらない~



農林普及課長
淵之上 修一

国は, 農地中間管理機構事業活用による農地集積・集約化や, 6次産業化, 輸出促進等の農業政策を進めています。当課では, 昨年度, 担い手の人材確保・育成, ばれいしょ・焼酎用さつまいも等の畑作農家育成, 果樹産地の新たな維持発展のあり方, 高品質茶の生産・流通体制強化, 集落で取り組む地域農業推進, 6次産業化研修企画, 肉用牛の計画的経営拡大の確立等に取り組み, 今後の方向性を示してきました。農村整備においては, 畑地対策総合事業における畑地かんがいも最終年度となり, 地域営農への活用を啓発・促進しているところです。いま, 屋久島には総合的な変革が求められます。変革はくぐっているときは大変ですが, かなったときには個人にとっても, 組織にとってもかけがえのない経験になります。屋久島のいまをどう改善し, 未来につないでいくのか, "待ち"だけでは何も起こりません。個人・組織が行動して変化を実感し, 変化の中でともに学び合うことで, 新しい農業が発展します。私たち職員一丸となって取り組みます。変化に対応できる各種産業との好循環をめざし, とともに学び, "いま"を充実したものにしていきたいと思います。

農業普及係



田淵昭徳
技術主幹兼農業普及係長

係の総括, 果樹, ブランド産地育成



上福元真寿美
技術専門員

地域振興, 食育・産地消, 女性起業



徳田博幸
技術専門員

畜産, 経営, 農業担い手育成



内村浩一郎
技術主査

茶, 新規就農・青年農業者育成



入料珠美
技術主査

野菜, 花, 作物, 病害虫, 土壌肥料

農村整備係



北田勉
技術主幹兼農村整備係長

係の総括, 事業全般



増田恭一
技術主査

畑総鈴岳地区2期地区, 中山間上屋久地区



浮邊康弘
技術主査

畑総鈴岳地区, 水土里サークル活動



齋藤昌彦
技術主幹兼林務係長

係の総括, 狩猟・緑化推進



牛山佳祐
林業技師

森林整備, 林業担い手対策

林務係